



100円札はいつ発行されたの

ドイツで作られ、1872年（明治5年）に発行された

江戸時代には、両（金貨）、匁（銀貨）、文（銅貨）がお金の単位として、使われていました。明治時代になって、政府が初めて発行した紙幣は「太政官札」ですが、これは江戸時代の、両・匁・文という単位をそのまま受けついでいました。しかし、にせ札が出回ったりして、なかなか信用されませんでした。

そこで政府は、1871年（明治4年）に「新貨条例」を作って、お金の単位を、円・銭・厘に改め、ドイツにたのんで、新しい紙幣を作り、太政官札と交換できるようにしました。

ドイツで印刷された新紙幣は、ゲルマン紙幣とよばれ、たて長で龍などが描かれています。明治通宝50円や明治通宝100円などが、これにあたります。

発行されたのは、1872年（明治5年）8月13日でした。

お金の単位は、なぜ「円」という名になったか

江戸時代に「両」といっていたお金の単位が、「円」という名に変わったのは、なぜでしょう。これには、いろいろな考え方があって、正確にはわかりません。

おもな説をあげてみますと、

日本が西洋の貨幣の手本とした、香港の貨幣に、「壹円」とか「半円」とかの表現があり、この円を参考にした。

新しい貨幣を作るとき、それまであった方形を円形にしたため、単位も円とした。

江戸時代には、一両のことを、一円とよんでいた人もいたから。

といったことがあげられるようです。（監修・保岡 孝之）

